

brainworx music & media gmbh



PLUGIN ALLIANCE



シンセシス・インプット：

ディスクリート2ステップスイッチ。シンセシス・サイドチェーンにフィードするオリジナル・シグナルのパートを選択します。“Mid”モードの場合、シグナルはミッド/サイド処理に変換され、ミッド・シグナルのみがサブハーモニクスを生成するために使用されます。これはインプットされる低域信号がセンターにパンニングされることが多いので、より分かりやすいシンセシスを作成することができます。

“ステレオ”モードに設定した場合、左右のチャンネルが別々のシンセシスチェーンにフィードされます。

ゲイン・イン：

インプット・シグナルのゲインを-20～+20dBの間で調整することができます。これはまた、シグナル・シンセシスのためのシグナル・レベルを間接的にコントロールします。

ゲイン・アウト：

アウトプット・シグナルの量を-20～+20dBの間でドライブさせます。

ミックス：

未処理のシグナルと処理済みのシグナルのミックス量を0%～100%の間で調整します。

モノ・メーカー：

このパラメーターは、設定した周波数（20Hz～22kHz）よりも下の処理されたサウンドをモノラルに合計します。もっとも一般的な設定は、100～200 Hz であり、その下に低域周波数が存在し、一般的には、ほとんどのサウンドがモノラルだとみなされています。他の用途では、モノラルで互換性をチェックし、位相の干渉を避けるためにミックス全体を試すことができます。

ステレオ・ワイズ：

相対的な S シグナルの量を調整することで、シグナルの知覚幅を 0%~400%の間で増減させます。

注意：

シンセシス・インプット、ゲインイン、ゲインアウト、ミックス、モノメーカー、ステレオ・ワイズはハードウェアでは使用できません。

シンセシス・インプット、モノメーカー、ステレオ・ワイズはモノラルでのプラグイン使用時は使用できません。

SUB パラメーター :



サブハーモニクス :

シンセシスのマスターレベルを 0%~100%の間で連続的に調整します。シンセシス・サイドチェインのマスターアウトプット・レベルを設定します。サイドチェインは、マルチバンド・シンセシスであるため、各バンドは他の2つに影響を与えることなく個別に設定が可能です。

24HZ ~ 36HZ :

26Hz~36Hzの間の周波数帯でのシンセサイズ・シグナルの量を0%~100%の間で連続的にコントロールします。プロセッサは、およその範囲のコントロールする周波数を検索します。52Hz~72Hzに変換し、そしてサブ・オクターブをシンセサイズします。ノブが、このバンドアウトプットレベルを設定します。

36HZ - 56HZ :

36 Hz~56 の間の周波数帯でのシンセサイズ・シグナルの量を0%~100%の間で連続的にコントロールします。プロセッサは、およその範囲のコントロールする周波数を検索します。72Hz~112Hz に変換し、そしてサブ・オクターブをシンセサイズします。ノブが、このバンドアウトプットレベルを設定します。

56HZ - 80HZ:

56 Hz~80 Hzの間の周波数帯でのシンセサイズ・シグナルの量を0%~100%の間で連続的にコントロールします。プロセッサは、およその範囲のコントロールする周波数を検索します。112Hz~160Hz に変換し、そしてサブ・オクターブをシンセサイズします。ノブが、このバンドアウトプットレベルを設定します。

ソロリッスン・ボタン 1、2、3 :

2ステップ切替式ボタン。各バンドのソロボタンは、他の2つのバンドをミュートします。1つを押すとその他のソロボタンをオフにします。再びソロボタンを押すとオフになります。

レベルトリム・ネジ 1、2、3 :

各バンドのトリム・ネジは、対応するバンドのシンセシス・サイドチェインのインプット・シグナルをブーストします。これは、このバンドの原音が他のバンドと比較して低い場合、サブハーモニクスを生成するのに役立ちます。(詳細については、9ページの“シグナルインプット・インジケータ”を参照してください。

Edge

Mode

Smooth



Harsh

Squeeze



50 %

Drive



0 %

Low Cut



33 Hz

High Cut



12.20k Hz

Filter

Tight Punch



Off

Low End



-3.0

Frequency

Solo

36-56 Hz



26 %



エッジ・パラメーター :

このセクションでは、シグナルをコンプレッションするか、かすかにオーバードライブさせることができます。その目的は、サブハーモニクス・セクションを、できるだけ多くのローエンドのノイズを少なくし、確実に動作させることですが、効果的な方法はシグナルのダイナミクスと帯域幅を変更、または減少させることです。エッジ・セクションは、この目標を達成するために役立ちます。

このセクションでは、ソースシグナルや設定に応じてシグナルをよりタイトに（ピーク間のリバースやルームインフォメーションを低減する）、ダイナミックではなく（たとえばトランジェントをコントロールするなど）歪ませるようにシグナルを操作することができます。様々な設定を試してみてください。エッジの使用方法にルールはありません。

モード :

ここでは、エッジ処理の2種類の方法を“Smooth”または“Harsh”から選択することができます。両方のエッジ・モードのオーディオ例については、弊社のウェブページをご確認ください。

Smooth : このモードでは、シグナルのローエンドを均一にするために穏やかなフォームやディストーション、または“ドライブ”を使用しているので、サブハーモニクス・セクションは予測がつきやすく、均等に機能します。アグレッシブな設定では、ベーシックなサチュレーションを加えることができますが、その目的は、サブハーモニクスを落ち着かせることです。 `bx_subsynth` に加えて `bx_saturation` を使用し、壮大で効果的な歪みやサチュレーションを得ることもお勧めします。

•Harsh：このモードでは、よりアグレッシブな方法を使用してシグナルのダイナミクスを均一化します。それぞれのセクションでサブハーモニクスを加える時に予測しやすい結果を得るために使用します。“Harsh”モードでは、プラグインは主にシグナルのピークをクリップさせ、バスドラム、スネアやその他のパーカッシブなサウンドに扱いにくいピークをもたらすことがあります。それはいくつかの使用方法ではアグレッシブ過ぎるように聴こえるかもしれませんが、他のソースでは、ドラマチックなサウンドが得られます。

スクイーズ：

このノブを使用すると、シグナルのダイナミクスやピークをどれくらい変更したいか連続可変ノブによって 0%~100%の間で設定することができます。値を大きくするほどトランジェントは長くなりますが、実際には、よりワイルドなサウンドを得るにはこのノブをあげてください。

ドライブ：

エッジセクションで適用されるドライブ、またはディストーションの量を 0%~100%の間を連続可変ノブで設定することができます。値を高く設定するほど鮮明なサウンドが得られます。

ローカット/ハイカット：

このパラメーターを使用してエッジ・エフェクトが適用する周波数の範囲を 20Hz~200Hz と 2kHz~20kHz の間で連続的に設定することができます。選択した周波数はクロスオーバーフィルターをオンにします。ローカット設定より上、またはハイカット設定より下の信号のみが影響を受けます。両方のパラメーターを有効にするとエッジ・エフェクトがバンドパスされた信号に適用されます。両方を無効にするとエフェクトはフルレンジ・シグナルになります。.

ローカット、ハイカットは、それぞれ下方向、上方向にノブを回すと無効になります。

フィルター・パラメーター

76 %

Synthesized Frequency

56-80 Hz

Trim 83 % Solo

24-36 Hz 36-56 Hz

25 % 26 %

Squeeze 50 % Drive 0 %

Low Cut 33 Hz High Cut 12.20k Hz

Filter

Tight Punch Off Low End -3.0

Output

L R

40 30 20 15 10 5 0

brainworx bx_subsynth

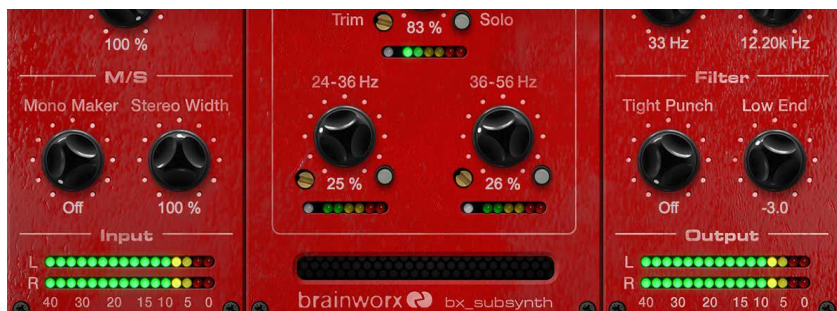
タイト・パンチ：

インプットに6次のレゾナントバタワース・フィルターを適用して低周波数帯を減衰させ、カットオフ・フリークエンシーでパンチを強調させます。これはサブハーモニクスが合算されているかどうかに関わらず使用することができ、ドラムやその他のパーカッシブなソースをシェイプする場合に特に効果的です。反時計回りに回し切るとスイッチをオフにします。

ローエンド：

このコントロールは、(サブハーモニクス合計後の) 低域のトータル・アウトプットをコントロールします。このパラメーターにユニットはありません。ポジティブ値に設定すると~55Hz付近をブーストするハードウェアでリジナルのLFブースト・ノブと同じ動作になります。ネガティブ値の設定はプラグインのみの機能で、カットフィルターを加えます。オーエンドは、サブハーモニクスが合計される場合とされない場合があります。

メーター :



インプット・メーター (ステレオ) :

RMS タイプ、レンジ : -40 dBFS ~0 dBFS、未処理のインプット・シグナルを測定

アウトプット・メーター (ステレオ) :

RMS タイプ、レンジ : -40 dBFS ~0 dBFS、処理後のアウトプットシグナルを測定。(これには、ミックスノブで 100%ウェットに設定されていない場合、ドライとウェット・シグナルが含まれます)

シグナルインプット・インジケータ1、2、3 :

モデリングされた波形のシンセシスでは、ソースの基本波形よりも下の波形を作り出すために若干の信号の存在を必要とします。ライトブルーの LED は各サブハーモニックバンドの信号の存在を示し、どのソースがどのソースに対しシンセシスに最適化されているかを表示します。(6 ページの「レベルトリム・ネジ 1, 2, 3」を参照してください)

シンセシス・メーター1、2、3 :

リニア、レンジ : $-\infty$ dBFS ~0 dBFS、対応するバンドで生成されるシンセサイズされたサウンドのレベルを表示します。他のバンドがソロに設定されている場合、指定されたバンドのメーターは無効にされます。

国内輸入代理店

株式会社宮地商会

M.I.D. Miyaji Import Division

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 1-4

Fax 03-3255-0382 E-MAIL : mid@miyaji.co.jp

URL : www.miyaji.co.jp/MID/